

事例番号 114 人・温ったか温情通り(岡山県岡山市・奉還町商店街)

1. 背景

岡山市は、市内を流れる旭川、吉井川の2大河川及び倉敷市の高梁川の豊かな水資源を持つ岡山平野の上に築かれた都市である。古代における吉備文化発祥の地であり、中世には石山城が築かれた。1573年(天正元年)に宇喜多直家が石山城に移り城と城下町との本格的な整備を開始し、子の秀家が岡山城及びその城下町として完成させた。その後、関が原の合戦で秀家が敗れ、岡山城には小早川秀秋が入り、その後池田家が入った。そして、1632年(寛永9年)、池田家同士の国替えで岡山に入った池田光政が藩政の改革や学問の奨励を通じてその後の岡山の基礎を築き、岡山は江戸時代を通じて繁栄した。明治以降は岡山県の県庁所在市として発展を続け、1996年には中核市に移行した。人口は増加を続けており、2006年3月末には約67万人となっている。



岡山市中心部 (資料:岡山市)

岡山市全体の人口が増加を続けている中で、郊外宅地開発の拡大により都心では人口が流出する地区が出てきている。また、近年では郊外型大規模店舗の相次ぐ立地により消費が都心から郊外へ向う傾向が生じ、都心の商店街は衰退の度合いを強めている。特に JR 岡山駅西口の商店街は都心の商業中心地が駅東口に傾斜してきたことから衰退傾向が顕著になっている。

JR 岡山駅西口の中心的な商店街が奉還町である。同町は JR 岡山駅西口から直線距離にして北 200mほどの位置にある東西方向の街(旧山陽道沿い)であり、そこは奉還町商店街(奉還町 1～2 丁目)及び西奉還町商店街(同 3～4 丁目)という 2 つの商店街になっている(距離約1km)。奉還町の名前は、大政奉還で職を失った旧池田藩士達が奉還金(藩から貰った退職金)を元手に興した商店街であることに由来する(それまでは同地区は城下町外れで街道が走るのみであった)。昭和 30 年代までは広域商店街として賑わっていたが、その後駅東口の発展とともに徐々に商圈を狭め、衰退の度を強めてきた。その主な原因は、自動車社会化に伴う郊外の市街地開発、それに伴う人口の郊外流出、郊外型大型店の立地、商店街経営者の高齢化、後継者難、JR 岡山駅東口を重点とする市街地整備の進展、駅東口における大型店の立地(1971 年高島屋岡山店(現・岡山高島屋)、1976 年ダイエー)等である。更に、駅東口地区の 1km スクエア構想(岡山商工会議所発表。4つの都市核を路面電車の環状化で結ぶ構想)が実現した場合に、西口地区は一層衰退するとの危機意識が地元では高まっている。このような事情を背景に、奉還町商店街ではこれまでさまざまな活性化策に取り組んできた。

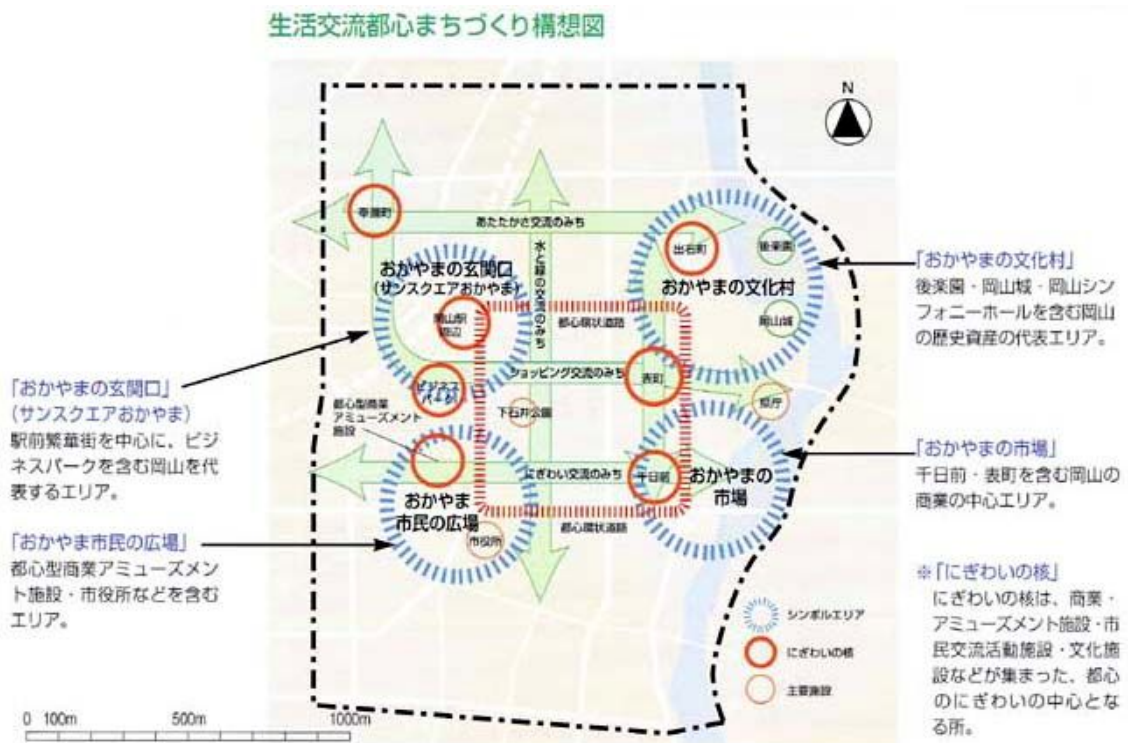


奉還町周辺 (資料:岡山市)

2. 目標

おおむね 21 世紀中葉の土地利用や市街地のあるべき将来像が描いている「おかやま都市マスタープラン原案(平成 9 年)」では、基本理念と目標が「きわだつまちと田園の個性をつくる」とされ、中四国広域圏の中においてはひとときわ際だつ中枢拠点都市を、都市内においては都市の活力と田園の豊かさが共存するガーデンシティ(庭園都市)を目指すとされている。また、都心まちづくりの方針として、暮らしやすさ、楽しさ、憩いをキーワードとした多世代生活交流空間の形成を目指すとしている。その基本的な考え方は「生活交流都心まちづくり構想」として示されている。それは、岡山を特徴づける個性的な空間としての「シンボルエリア」と、商業・アミューズメント施設・市民交流活動施設・文化施設など都心のにぎわいの中心となる「にぎわいの核」とを、水と緑にあふれた人間優先の「交流のみち」で相互に結ぶ構想である。奉還町はその中で「にぎわいの核」として位置づけられている。

岡山市のこのような構想の下で、奉還町商店街振興組合は、奉還町の歴史的イメージを創出して人と環境に優しい快適な街づくりを目指している。そのキャッチフレーズは「人・温ったか温情通り」である。2006 年 2 月 16 日の山陽新聞によれば、奉還町商店街は「懐かしさと気軽さ」が共存する街であり、その特性を活かすことが重視されている。



生活交流都心まちづくりのコンセプト (資料:岡山市)

3. 取り組みの体制

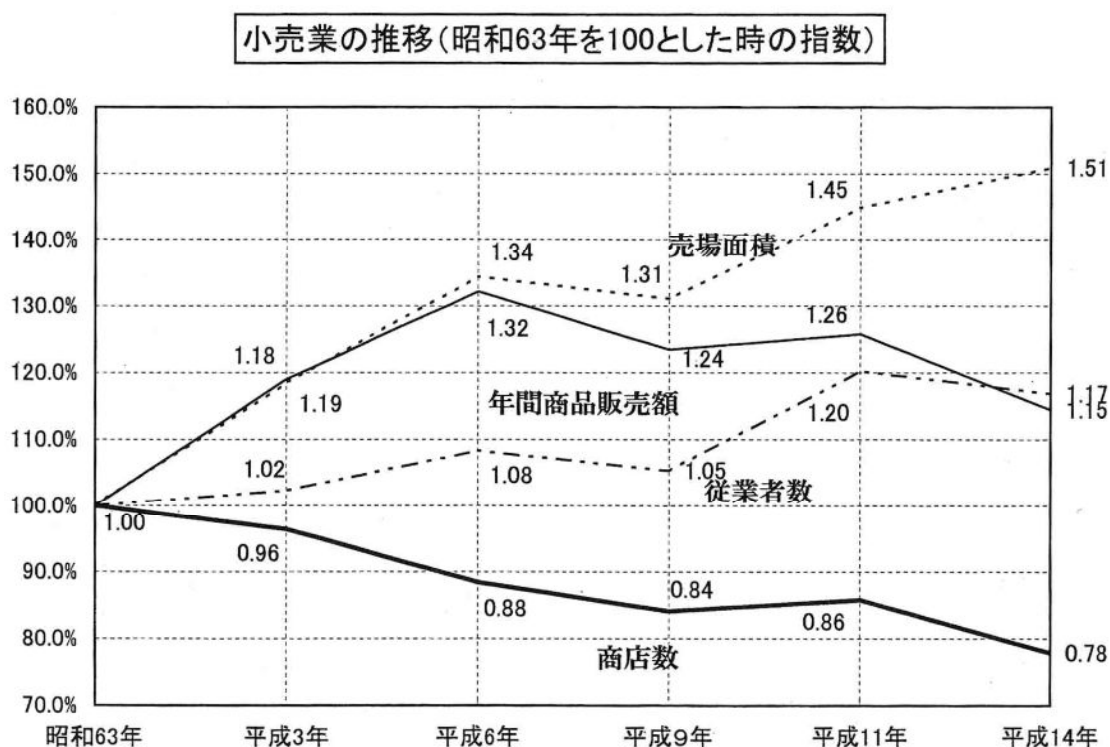
奉還町商店街振興組合が中心になって事業を展開し、それを行政が資金的に支援するという形になっている。振興組合が事業を展開するに際しては、地元のアーティスト、学校等と協働している点が大きな特徴である。

4. 具体策

(1) 商店街の実態調査

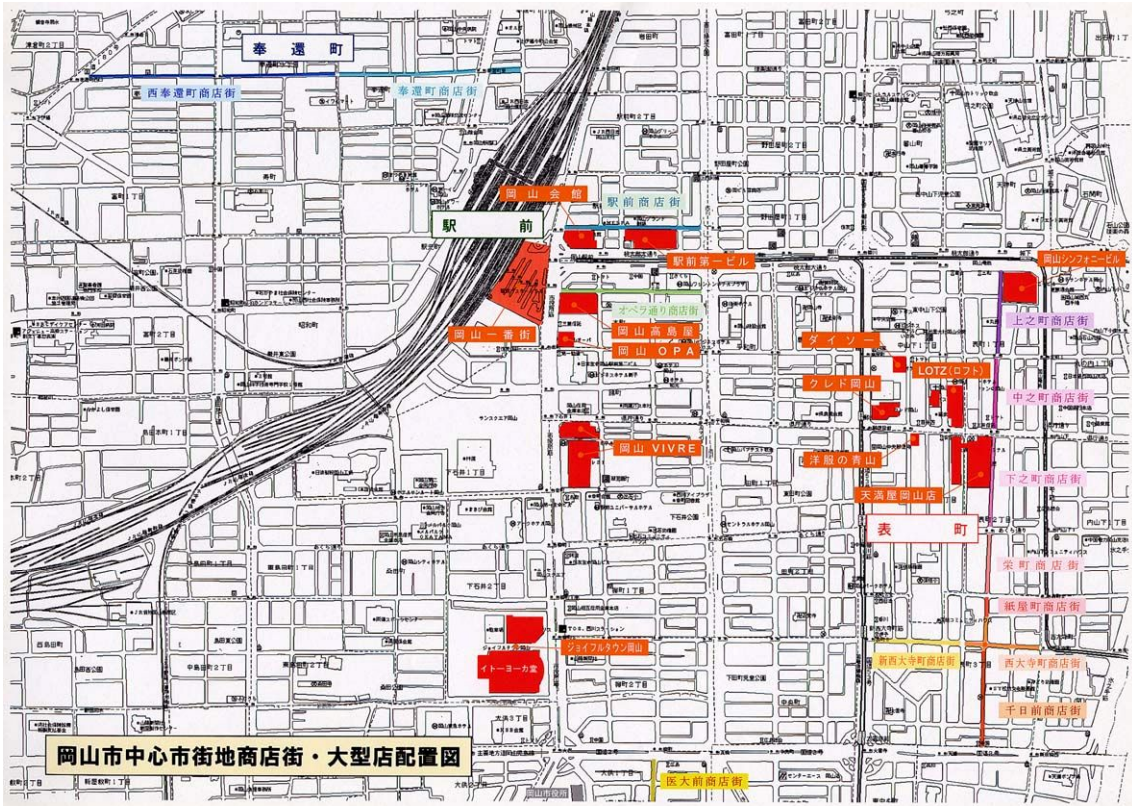
岡山市では商店街の実態に関する既存統計を収集し、あるいは自ら調査し、商店街の活性化を図る上で大きな役割を果たしている。ここでは奉還町を中心に主な統計結果を概観しておく。

はじめに岡山市全体の小売業の動向を見ると(下図)、商店数は1988年(昭和63年)から2002年(平成14年)までの約15年間で22%も減少している。年間商品販売額はデフレの影響もあり1994年をピークに減少に転じ、同年から2002年までに13%減少している。従業者数は大型店の進出により増加基調で推移したが、1999年がピークとなり、2002年は同年に比し2.5%減少している。ところが売り場面積は2002年まで一貫して増大しており、2002年は1988年に比し51%も増えている。



小売業の指標の推移 (資料:岡山市経済局『2005 商工観光のしおり』、元データは商業統計調査)

大型店の進出が止まらず、今や大型店どうしの食い合いにまで至っているものと思われるが、奉還町商店街によれば「まちづくり三法」(1998年)ができてから状況がひどくなったということである。それまでは空き店舗を探しに来る人も多かったとのことであるが、それ以後はギブアップ状態であるという。岡山市における1998年以後の主な大型店の立地状況を見ると、1998年 GMS(18,903 m²)、HC(4,500 m²)、1999年専門店(6,842 m²)、SC(3,680 m²)、SC(5,269 m²)、2000年専門店・SM(6,989 m²)、GMS(4,721 m²)、GMS(6,311 m²)、2001年専門店(7,023 m²)、2003年HC(4,200 m²)、専門店(3,500 m²)、HC(3,788 m²)、2004年SM(2,601 m²)、SM・HC(5,350 m²)、2005年専門店(6,117 m²)等となっている。



岡山市中心部における大型店の立地状況（資料：岡山市）

市内の商店街における歩行者通行量は大きく減少してきているが(次表)、とりわけ減少が著しいのが奉還町及び西奉還町である。奉還町では1970年(昭和45年)に休日で12,821人、平日で10,464人あった通行量が、2004年(平成16年)にはそれぞれ1,759人、1,880人に減っている。西奉還町では1970年にそれぞれ9,215人、6,246人であったものが2004年には1,042人、1,143人に減っている。これだけ減っても商店街が存続していること自体が驚異的であり、その間における関係者の努力の大きさが偲ばれるが、西奉還町では最近では商店が住宅に変わりつつある。なお、奉還町で通行量が著しく減少したのは昭和の時代においてであり、これは他のいくつかの商店街でも同様であるが、他の商店街では平成に入ってから横ばいに転じているものがあるのに対し、奉還町では依然として減少を続けている。

歩行者通行量を休日と平日とで比較すると(次々表)、奉還町以外の商店街では休日の通行量の方が多いのに対し、奉還町では少なくなっている。奉還町周辺においても休日の通行量は平日よりも少なく、賑わいの中心が駅の東側になっていることがわかる。奉還町商店街は日常の買回りを求める場所(下町型地元商店街)になっているわけであるが、そのような商店街を再生させるためには平日に通行する人々との交流を拡大していくことがとりわけ重要になる。

主要地点通行量の推移（4年ごとの数値）

	商店街名	地点名		昭和45年	昭和49年	昭和53年	昭和57年	昭和61年	平成2年	平成6年	平成10年	平成14年	平成16年
				休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日
表町	①上之町	丸善ビル前	休日	19,840	14,302	11,777	12,380	8,342	6,502	15,272	16,488	12,398	9,553
			平日	9,033	11,933	9,337	10,742	6,905	4,279	8,446	7,686	5,466	5,397
	②中之町	ProsY前	休日	25,413	18,525	17,158	16,140	11,674	12,279	16,991	18,313	13,518	10,819
			平日	13,528	13,942	12,169	12,875	8,757	7,842	10,295	6,151	7,233	6,246
	③下之町	アリスの 広場前	休日	44,905	37,329	41,339	38,011	29,679	24,420	25,447	25,505	21,483	23,781
			平日	24,977	25,372	26,243	31,327	21,369	15,438	15,797	13,622	11,606	11,251
	④栄町	美健堂前	休日	28,399	22,501	19,718	17,396	17,054	14,249	10,951	11,851	7,050	5,641
平日			14,256	12,703	10,136	12,768	8,317	7,330	6,592	5,739	4,902	3,394	
⑤表町南部	まつだビル 東側	休日	29,288	19,649	16,627	15,632	14,139	10,771	9,261	9,683	5,604	4,525	
		平日	13,920	8,932	8,196	12,509	6,892	5,718	6,285	4,412	3,888	3,424	
⑥新西大寺町	新西大寺町 東端	休日	15,490	7,250	10,844	8,854	5,131	4,239	3,332	3,583	2,873	2,558	
		平日	7,946	5,969	9,515	8,858	3,735	2,957	2,491	2,303	2,472	2,496	
⑦千日前	旧銀ビル前	休日	17,777	14,251	11,695	11,694	8,500	4,956	6,159	7,752	3,474	2,216	
		平日	10,239	8,761	7,478	10,247	4,689	3,779	4,305	3,642	2,766	1,758	
駅前・ 駅南	⑧駅前	キシザワ前	休日		15,396	8,424	11,907	11,019	12,110	8,879	6,686	6,531	5,252
			平日		11,351	8,068	10,792	8,705	9,124	6,806	6,039	5,397	4,264
	⑨本町	高島屋正面	休日		29,217	17,228	17,989	10,054	16,318	8,101	6,956	12,317	11,876
			平日		17,262	11,802	15,241	10,064	12,486	5,450	7,328	8,655	8,401
	⑩幸町	岡山ビブレ	休日				6,552	5,311	9,566	10,050	9,663	5,996	5,148
			平日				7,153	5,056	7,263	6,867	6,241	4,636	3,676
	⑪岡山一番街	地下道 1号線	休日			23,233	33,320	29,886	26,957	20,245	21,093	16,332	14,806
平日					20,399	28,464	21,675	16,942	18,495	16,730	14,033	13,467	
⑫三番街	レストラン カヤ前	休日	28,859	27,164	29,156	17,157	21,601	15,802	14,171	14,166	9,535	7,211	
		平日	25,080	19,135	19,444	17,039	15,258	12,870	13,875	12,421	8,622	7,660	
奉還町	⑬奉還町	杉山種苗店 前	休日	12,821	10,424	10,549	8,651	5,935	4,683	3,478	2,595	2,549	1,759
			平日	10,464	8,791	8,382	8,284	5,069	3,686	3,106	2,594	2,164	1,880
⑭西奉還町	アイドル前	休日	9,215	8,134	7,219	4,823	2,975	2,246	1,613	1,305	1,233	1,042	
		平日	6,246	6,859	6,214	5,263	3,082	2,336	1,740	1,338	1,068	1,143	

※各年3月中旬の休日（日曜）・平日（翌月曜）の午前9時～午後6時に調査実施

調査地区	地点数	方向数	休日	平日	休日／平日
表町地区	26	52	159,895人	91,748人	174.3%
表町商店街	20	40	137,077	82,443	166.3
商店街周辺地点	6	12	22,818	9,305	245.2
駅前地区	29	58	190,809	154,271	123.7
駅前地区商店街	18	36	110,629	76,542	144.5
駅前地区地下街	11	22	80,180	77,729	103.2
駅南地区	11	22	39,925	28,151	141.8
奉還町地区	8	16	9,729	10,398	93.6
奉還町商店街	6	12	6,743	7,322	92.1
商店街周辺地点	2	4	2,986	3,076	97.1
合計	74	148	400,358	284,568	140.7

（資料：第20回岡山市商店街通行量調査結果報告書）

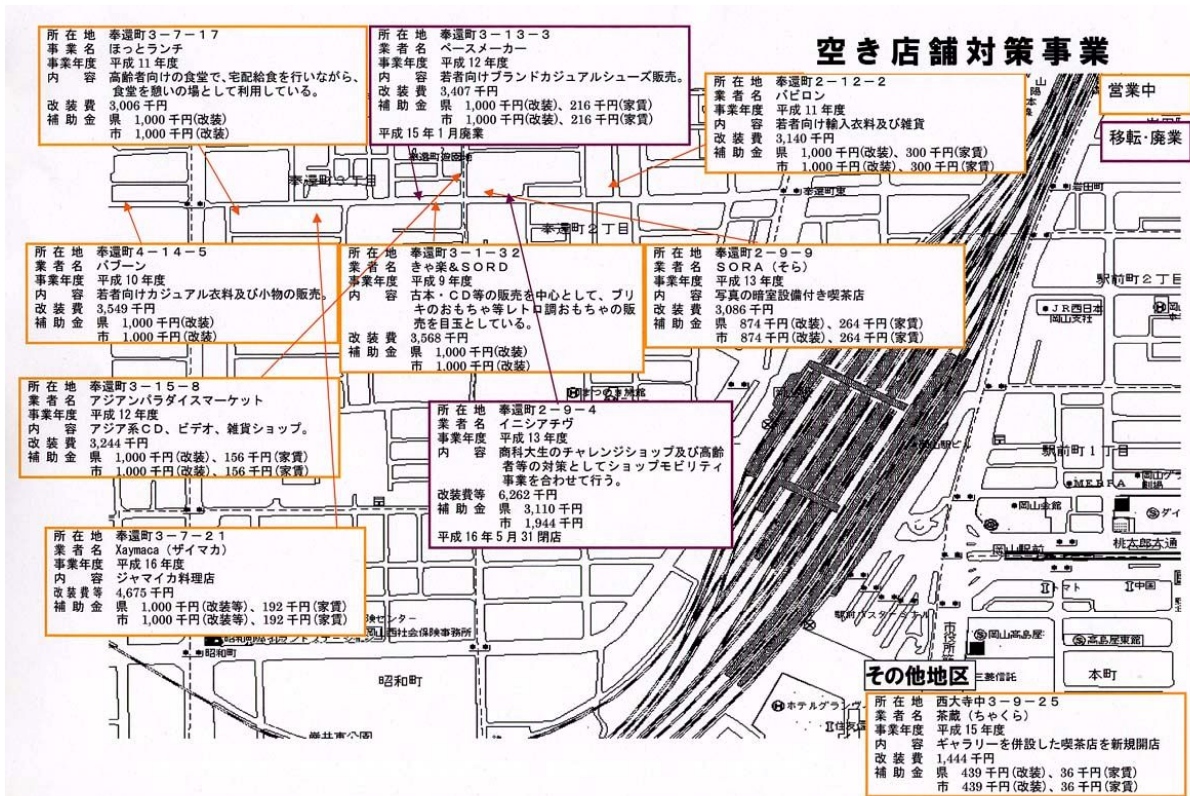
(2) 行政の支援による空き店舗対策

岡山市では岡山県と協調して「新商人(しんあきんど)育成支援事業」というプログラムを実施してきている。これは、空き店舗改装費等支援事業及び空き店舗家賃補助事業からなる。

空き店舗改装費等支援事業は、空き店舗に新規出店する場合の店舗の改装費および広告宣伝費に対して補助を行うものである。事業実施主体は商店街組合であり、補助率は県が3分の1、市町村が3分の1、商店街組合が3分の1である(補助限度額200万円(県・市))。

空き店舗家賃補助事業は、空き店舗に新規出店する場合の店舗の家賃(敷金、礼金、共益費は除く)に対して補助を行うものである。事業実施主体は商店街組合であり、補助率は県が3分の1、市町村が3分の1、商店街組合が3分の1である(補助限度額60万円(県・市)、12ヶ月限り)。

奉還町商店街でもこの制度を活用して空き店舗への新規出店をいくつも実現してきている。移転・廃業したものも出ているが、既に5年以上継続している店が多い。バビロン(靴、バッグ等)などイベントを契機に入ってきた若者向けの店もあり、商店街振興組合ではこのような地道な努力により店舗の新陳代謝を確保していくことが何より重要であると考えている。空き店舗の問題とともに店舗が住宅に変わってしまうという問題もあり(例えば国体通り東側の奉還町1丁目では営業している店舗は激減している)、岡山市としても店舗は地域の資源として積極的に貸していく姿勢が必要であると考えている。



「新商人(しんあきんど)育成支援事業」による奉還町での出店実績 (資料:岡山市)

(注:アジアンパラダイスマーケットは2005年7月移転、ガイマカの改装費等は4,523千円)

(3) 奉還町商店街におけるこれまでの主な取り組み

奉還町商店街では空き店舗対策事業以外にも行政が支援し、あるいは主体になってさまざまなハード事業、ソフト事業を行ってきている。それらの中から最近の主なものをまとめると以下のようになっている(資料:岡山市)。

[ハード事業]

1992 年度 「奉還町パサージュ(奉還町商店街モール化事業)」(奉還町二丁目)

カラー舗装(L=297m、W=6~8m)、アーチ、ストリートファニチャー

事業主体 奉還町商店街振興組合

事業費 143,110 千円

(うち国 24,500 千円、県 24,500 千円、市 35,277 千円)

1995 年度 「駅西南北モール整備事業」(奉還町二丁目)

カラー舗装(L=411m、W=5.5m)

事業主体 岡山市

事業費 225,306 千円

1998 年度 「奉還町りぶら(ウェルカムプラザ奉還町建設事業)」(奉還町二丁目)

コミュニティ施設(延床面積 508.34 m²/ポケットパーク、ギャラリー、ホール等)

事業主体 奉還町商店街振興組合

事業費 161,489 千円

(うち国 22,764 千円、県 22,764 千円、市 23,098 千円)

「わいわい広場(西奉還町イベント広場整備事業)」(奉還町三丁目)

イベント広場(170.3 m²)

事業主体 岡山市

事業費 115,032 千円

(用地購入 81,744 千円、補償 20,320 千円、トイレ他 12,968 千円)

「奉還町三丁目商店街街路整備事業」(奉還町三丁目)

カラー舗装(L=233m、W=6m)

事業主体 岡山市

事業費 27,702 千円

2000 年度 「奉還町四丁目商店街街路整備事業」(奉還町四丁目)

カラー舗装(L=270m、W=5m)

事業主体 岡山市

事業費 36,730 千円(うち国 11,000 千円)

2002 年度 「奉還町商店街基盤整備事業」(奉還町二丁目)

アーケード受電設備改修

事業主体 奉還町商店街振興組合

事業費 3,938 千円(うち県 970 千円、市 970 千円)

〔ソフト事業〕

1999 年度 「奉還町りぶらを活用した研修会、カルチャー教室等の活性化事業」

事業主体 奉還町商店街振興組合

事業費 32,100 千円(うち国 7,338 千円、市 7,338 千円)

2001 年度 「イニシアチブ(チャレンジショップ、タウンモビリティ事業)」

空き店舗を活用した大学生が運営する雑貨店

電動スクーター 2 台設置

事業主体 岡山県中小企業団体中央会

事業費 6,243 千円(県 3,110 千円、市 1,944 千円、中央会 1,189 千円)

※ 2004 年 5 月 31 日閉店

2004 年度 「西奉還町商店街情報化対策事業」

ポイントカードシステム導入

事業主体 協同組合西奉還町商店会

事業費 7,414 千円(うち県 2,326 千円、市 2,326 千円)



奉還町商店街(国道 53 号から)

(4)「奉還町りぶら」

奉還町で行われたハード事業の中でとりわけ注目されてきたのが1999年3月に開設した「奉還町りぶら」である。奉還町商店街には来街者のための憩いの場やイベントの場がなかったことから、奉還町商店街振興組合が空き店舗を取得して人と人とのふれあいの場として整備した(奉還町2丁目14-7)。

同施設の土地にはもともと洋装店があったが、その店が廃業後に商店街振興組合が買取を決定した。それからその土地をどう使うかを組合の中で議論した結果、商店街には公衆トイレが必要である(特に高齢者用)、施設にはエレベーターが必要である等施設のイメージが固まっていた。その結果、建設が決定された施設の概要は次のとおりである。

土地	敷地面積 207.16 m ²
建物	地下1階 地上5階建て鉄筋コンクリート
	建築面積 165.12 m ² 延床面積 508.34 m ²
	(各フロア詳細)
	地階(17.68 m ²) : EVピット、受水槽、ポンプ室
	1階(165.12 m ²) : ポケットパーク(ベンチ、植栽、ガーデン、イベント会場)
	公衆トイレ、公衆電話、ギャラリー
	2階(115.86 m ²) : ホールA(会議、研修、イベント他)
	3階(92.75 m ²) : ホールB 会議室(カルチャールーム他)
	4階(92.75 m ²) : ホールC(各種会議他)
	5階(24.18 m ²) : EV機械室

総事業費	161,488,162 円
	(内訳)
土地取得費	60,607,682 円
建設費等	91,055,480 円
設計監理費	6,825,000 円
備品費	3,000,000 円
資金計画	高度化資金等 69,208,000 円
	補助金 68,625,398 円
	(内訳)
	国 22,763,870 円
	県 22,763,870 円
	市 23,097,658 円
	自己資金 23,654,764 円



奉還町商店街(「りぶら」付近)



奉還町りぶら

「りぶら」の名前は公募により決定したもので、Liberty / International / Beauty / Urbanity / Living Culture / Amenityの頭文字をつなげたものである。1階には事務室、2、3階には厨房が設けられている。ホールにはテレビ、ビデオデッキ、コピー、ファクス、ホワイトボード等が設置されている。

「奉還町りぶら」はこれまで各種会議、カルチャー教室、料理教室、講習会、サークル活動等に利用されてきている。現在のカルチャー教室には、書道、絵画、水墨画、ヨーガ、気功、太極拳、日本民謡、カラオケ、そろそろダンス(高齢者のダンス)、ワイン、中国茶等がある。これらのカルチャー教室は大変密度高く開催されており、料金も低く設定されていることから、大勢の人々が訪れるようになっている。また、ホールは学生のサークル活動、ボランティアの国際交流会、外国人との交流会等にも活用されており、老若男女さまざまな人々が集う拠点となっている。これにより従来はなかった人々の交流が生まれ、商店街の活気を取り戻す上でも大きな効果を発揮してきている。

料金はギャラリー、ホール 1箇所 2時間につき 2,000円である。また、学生が1階のギャラリーを利用する時は無料である。近くには4つの大学、4つの予備校、3つの高校がありイベント、作品展等で利用しているが、商店街にとっては若い人たちが来てくれることが重要であり、今の学生を将来の顧客として商店街に繋ぎとめておきたいという理事長の思いから無料にしている。

施設利用の収入は月平均 20～25万円程度ということであるから、1回 2,000円とすると月に 100～125回程度使われていることになり、かなりの回転率である。日曜日は暇のようであるが平日はフル稼働状態であり、年間 270～280万円の収入になっている。地元の人だけでなく広く岡山市の人でも利用している。近くには国際交流センターがあるが、利用料が高いため「奉還町りぶら」に需要が集まっているようである。「奉還町りぶら」の利点は駅まで 3分前後という立地条件のよさにある。自転車も停められるようになっている(自動車が利用できないのが欠点)。市外からの参加者も多い。

「奉還町りぶら」が人の交流を生み出している背景には建築の力もある。入り口をポケットパークとして建物を商店街に開き、そこに緑、川の流れを意識した石床デザイン、ベンチ等を設けて潤いのある親しみやすい空間を演出している。また、高齢者、身障者でも利用しやすいようバリアフリー化等が徹底されている。この建築の形は、地元の建築家と商店街関係者が 1年半にわたって協働設計した結果生まれたものである。

施設の建設費には国、県、市から補助が入り、また、管理運営費には組合の負担が入っている。さらに、運営のスタッフは開設と同時に結成された「奉還町おかみさん会」(商店街有志)が担っているため、施設利用料を低く抑えることができている(前記の収入額では管理人の給料は出ないという事情もある)。

「奉還町りぶら」が商店街の売上増に貢献しているとは今のところは言えないようである(女性の来訪者は必ず買い物をしていくということではあるが)。歩行者通行量も施設開設後は一時増加したものの、再び減少している(平日で 1998年 2,594人、2000年 2,785人、2002年 2,164人、2004年 1,884人)。むしろ、クーラー等のランニングコストが負担になっているという。商店街振興組合は街路整備に要した借金は完済したが、「奉還町りぶら」の返済はまだこれからであり、今後閉める店が増加するとその負担が大変になる。

しかしながら、「奉還町りぶら」があることによって人々が集まり、イベントも行われ、それを契機に空き店舗に出店する人も出ているので、商店街の核施設としての役割は十分に果たしていると言える。特に、「奉還町りぶら」がなければ素通りするだけの学生、あるいは来訪しない学生等がやっ

てきていることは将来的に大きな意義を持つと考えられている。2002年1月24日の山陽新聞岡山市民版には、「商店街は登下校する学生は多いが、通り過ぎるだけで『学生の街』というイメージはない。りぶらが若い人の集う拠点になれば、新たな商売の可能性も広がるはず」との岸振興組合代表理事の言葉が載っている。

Liberty International Beauty Urbanity Living Culture Amenity

LiveLove岡山 LiveLove奉還町
 ぶらりアラブラとどろあぎしたい街
 自由で「明るく楽しい」「生活感」あふれる街
 自由で「オシャレ」で「美しい」「密着の」な街

奉還町
りぶら
LIBULA

JR岡山駅より歩いて約5分
奉還町商店街の中心部に
入ると、そして街の文化交流の
発信の場として誕生しました。
みなさまの交流の場として、
各種イベント、サークル活動など
にご利用下さい。

ご利用受付方法
①申込みは使用される3ヶ月前の同日から所定の書面にて受け付けてきます。
②使用料は受理と同時に前納とします。

各種カルチャースクールお申込み受付方法
カルチャースクール入会ご希望の方は、1階管理事務所にお問い合わせ下さい。

休館日
*曜日・年末年始(12月28日～1月6日)

奉還町商店街振興組合
TEL 086 252 1491 FAX 086 252 1466

PROFILE OF THE LIBULA

奉還町りぶら LIBULA

りぶらは、
自由な文化交流空間として
誕生しました。

ギャラリー
15坪・可動パネル10、壁面展示可能、スポット照明有り
ポケットパークからの出入可
写真・絵画・書等の作品発表会の他、生花・持芸・
テーブルイベント等の作品展示等にご利用頂けます。

りぶらホールB
20坪・長机14台・イス41脚・演台1台
照明設備(電気コントロール)

●各種会議・カルチャー教室・手軽な料理教室
●各種講演会・サークル発表会等にご利用頂けます。

備品：テレビ・ビデオデッキ・コピー・FAX
オーディオ・ソフトウェア・ポータブル音響

りぶらホールA
20坪・長机14台・イス41脚・演台1台
照明設備(ガスコントロール・備品無し)

りぶらホールC
20坪・長机12台

りぶらホールD
20坪・長机12台

「奉還町りぶら」パンフレット

(5)「奉還町アート商店街」

奉還町商店街ではこれまでさまざまなイベントを行ってきたが、中でも注目されたのが 2001 年 10 月 20 日～11 月 4 日に開催された「奉還町アート商店街」という名のイベントである。これは地元の若手アーティストが商店の店先に現代アートの作品を置いたり、商店街の中でパフォーマンスをするという内容のものであった。具体的なイベントは次の 4 つから成っていた。

- ① テンポテン(店舗内にアーティストが作品を展示)
- ② ワークショップ(アーティストと実際に作ったり演じたりすることで新しい視点を獲得する場)
- ③ アートショップ(オリジナル作品の直売、オリジナル絵葉書の展示・販売)
- ④ アートアクション(アーケードにおけるパフォーマンス)

このイベントを企画したのは「アート互助会」であった。同会は岡山で開催されたアートマネジメント講座に参加した 7 人のアーティストが結成したものである(中心は奉還町在住で倉敷市立美術館勤務の大野亜紀子氏)。同会はアートのコミュニケーション力に着目し、商店街振興組合の了解の下、個々の商店を訪れて趣旨を説明し、ほぼ商店街ぐるみで実施する盛大なイベントを実現した(イベントの主催は奉還町アート商店街実行委員会、岡山県教育委員会、岡山県芸術文化祭実行委員会であり、後援は西奉還町商店会、奉還町商店街おかみさん会であった)。

このイベントのねらいは「アート互助会」の企画書に簡潔に記されている。同書によれば、テンポテン(企画書では「奉還町アートオーデション(仮称)」)はアンデパンダン形式の美術作品を展示するものである。アンデパンダンとは無審査、無償の美術展である。出品したいアーティストは公開でプレゼンテーションを行い、それを見た店主が作品を置きたいと思えばそのアーティストに申し出る。アーティストは事前に商店街を下見して自分の作品を置きたい店舗の見当を付けているので、両者の調整の結果、出品が決まる。そこに、単に「貸す」「借りる」の関係を越えた「関わりあう」という関係が生まれることが期待されるという。それにワークショップ、アートショップ、アートアクションを組み合わせて、商店街とアートとの関わりを多元的に追求する。商店街とアートとの融合の意義は、大野氏が次のように述べている(2001 年 11 月 25 日山陽新聞岡山市民版からの抜粋)。

奉還町商店街は食品や雑貨など、生活と密着した店が多い。レジに商品を持っていくだけのデパートとは違い、店主のおじさん、おばさんと世間話をしながら買い物をするコミュニケーションの空間。本来、アートも身近で生活の中にあるべきもので、「芸術作品は美術館に行ってみるもの」という“箱”にこだわる感覚を脱却したかった。商店街とアートは、全く異質のようで実は似ている。この二つだったら融合できるのでは・・・と。

たとえば、店の外観を改装するには多額の費用が必要になるが、アート作品を店内に展示するという、ソフト面のほんのちょっとした変化が、商店街の雰囲気はずいぶん変える。常連さんだけでなく、アートを探して足を運ぶ新しい客も多かったし、客と店主との会話も弾んだ。客に店内に足を運んでもらえたことは大きいと思う。人情の深い町なので「商店街を歩くことは楽しいんだ」と分かってもらえたのでは。

まちづくりは、住んでいる人が「ここはいい町なんだ」と誇りに思えることが一番大切だと思う。

実際に作品展示が行われたのは店舗の3分の1程度であったが、延べ130人の若手アーティストが作品を発表した。オープニングでは「1kmの対話」という名の下、商店街を貫くテープに商店主約300人がはさみを入れるというイベントを行い、商店街全体をひとつのコミュニティとする演出を行った。出品されたアートは、店内に展示されたものの他、アーケードに張られた18枚の空の写真、屋外でのパントマイム、大道芸、こたつを置いての芸などであった。身体障害者が制作した絵画等も展示された。

イベントの直後は空き店舗の人気が出て、振興組合では探すのに苦労した程であった。その時に出店した2店は今も営業を続けている。

イベントに際しては、振興組合が事務所の空き店舗を2ヶ月間無料で貸した(水道代、光熱費は商店街が負担)。アーティストはそれぞれ独自の価値観を持ち泊り込みで制作にあたるので取りまとめが大変であり、頻繁に開催できるイベントではないが、奉還町では2005年10月22～11月7日にも「奉還町アート2005」というイベントを行っている(テナポテン、アートショップ、ワークショップ、アートアクション)。同イベントには58人のアーティストが参加した(なお、主催者、実施内容は前回とは違うものになっている)。

(6) 定期的なイベント

奉還町商店街振興組合は、定期的なイベントとして以下のものを開催している。

ほうかん一二三市(露天市)	毎月1日、2日、3日に特価品を各店が売台に出す (1月は除く。12月は2回開催)
土曜夜市	7月第1、第2、第3土曜日に何でも100円食道楽を開催。 (焼きそば、ところてん、かき氷、綿菓子、ラムネ等)
浪漫ティック奉還祭	地域あげての夏祭りイベント
福祉団体イベント	福祉団体と連携して商店街で作品展等を開催
ハロウィン	カボチャの展示、仮装コンテスト、商店街練り歩き等
歳末大売出し	奉還大判(500円券)、小判(100円券)が当たるスピードくじ
歳末特別イベント	12月22～24日「奉還町りぶら」でイベント
奉還町りぶら周年行事	「りぶら文化祭」(カルチャー教室の文化祭、5月)
岡山市商店会連合会のイベント協力	

浪漫ティック奉還祭は、奉還町周辺の12団体(石井小学校区の連合町内会、婦人会、体育協会、老人クラブ、愛育委員会、PTA等)と連携したパレード、ブラスバンド、パフォーマンス、ゲーム大会、盆踊り、ストリートイベント等が行われ、地域交流、国際交流(世界6カ国の屋台、バザー等)の場となっている。また、ハロウィンは、専門学校、大学、小学校、幼稚園、保育園と協働で行われている。このイベントは、店にそれぞれハロウィンのマークを付け、そこでスタンプを押し、全部押すと広場でおかしと交換できるというものである。近くにあるビーマックスという専門学校の生徒等が毎年100人くらい参加しており、それを契機に空き店舗で商売を始めたという人もいる。

学生との交流に関しては、教える立場での教育機会を学生に提供してほしいとの依頼がビーマックスの学校側からあり、学生が先生になってパソコン教室を開いている(先生2人、生徒10人)。

また、かつて円高で留学生が生活費に困っていたときに、彼らが奉還町に屋台(中国人のギョーザ、トルコ人の肉等)を出して生活費を稼ぐことができるよう振興組合が応援したことがある。以来、イベント等を通じて商店街が国際交流の場にもなっている。

(7)「奉還町いきいきプラン」

奉還町には再生する価値がある戦前の家屋がある一方、奉還町3丁目と伊福町1丁目は戦災に遭っていないので消防車が入れない道もあり、構造的に脆弱な家屋も数多く残されている。また、昭和35年頃に計画された都市計画道路が店舗の減歩の困難さから整備できず、以来基盤整備も立ち遅れている。それらの結果、奉還町周辺は災害に対して大変脆弱な状況にある(火事が出るとまた奉還町かと言われる)。

このように、奉還町では周辺地区も含めて再生策を考えなければならない状況にあることから、JR岡山駅西地域(伊福町、奉還町、駅元町、寿町、昭和町)の有志約15人(住民、商店主、大学教授等)が「駅西地域街づくり協議会」を発足させた。同協議会は2005年度の全国都市再生モデル調査に応募して選ばれ、対策の検討を開始した。そして奉還町を含む約47haを対象にアンケート調査や現地調査を行い、全30項目の対策を盛り込んだ「奉還町いきいきプラン」を作成した(2006年3月)。同プランは、「"ほっと"するまち奉還町」を目標に、「住みやすい環境づくり」「特色ある個性」「多様なものの融合」等をテーマとして以下の施策を提示している。

[短期的施策]

- ①防犯灯の増設、②標識・石碑の設置、③イベントによる奉還町や旧街道の歴史のPR、④街角へのベンチの設置、⑤商品配達サービス、等14項目

[中期的施策]

- ①沿道の共同建て替え、②面整備にあわせた道路拡張、③商店街での社会見学・体験学習コースの検討、④商店街への店舗誘致をコントロールする仕組みづくり、等9項目

[長期的施策]

- ①広場や公園、多世代の交流施設の整備、等の7項目

「駅西地域街づくり協議会」は、地区の将来像として、中央に緑を配し、駅東側の環状LRTを延伸する等のイメージを描いている。また、今後は郊外の高齢者が戻ってくるので、高齢者が住みやすいまちにしたいと考えている。

一方、同協議会は、空き家になっていた交番を借りて2005年10月に「奉還町街づくり防犯防災センター」を開設している。この建物はかつては岡山西署の奉還町交番であったが、1997年に同署が移転した際に交番も移転して空き家になっていた。それを活用すべく同協議会が市に要望した結果、市が県警から無償で借り受け、同協議会が市から借りることとなった。その交番を防災センターとして活用するにあたっては、消防庁の「地域安全安心ステーション整備モデル事業」の補助金を得、消防庁と市との補助金により消火器、救急箱、防災無線、AED等を設置した。そして店主等の地域住民主体で防災活動を行う体制を整えた。



奉還町街づくり防犯防災センター

5. 特徴的手法

「奉還町りぶら」という賑わいの核となる施設を整備して多くの人が集まるようになったことは意義深い。商店街の中にそのような施設がある例は少なく、今でも視察者が多いそうである。その施設を学生には無料で貸して将来の商店街の発展につなげようとする発想も特徴的である。一方、商店街とアートとの類似性、相互に高めあう効果に着目して断続的にはあれ「アート商店街」の試みを続けていることも大きな特徴である。そのようなイベントを行う際に「奉還町りぶら」の存在が有効に機能しており、施設とイベントとの効果的な組み合わせが実現できている。

6. 課題

奉還町では依然として歩行者通行量が減少を続けており、店舗も 30%以上が閉まっているという厳しい状況にある。浪漫ティック奉還祭のときは大勢の人が集まり、下町の雰囲気を生かしたやり方が効果的なものになっているが、イベントから商店へ人を誘導するための仕掛けづくりが求められている。また、商店街としての店舗誘致のコントロール(店舗構成のマネジメント)が課題となっている。

商店街の建物は老朽化が進んでいる。奉還町 2 丁目の 98 店のうち約 50 店は戦災復興区画整

理をした土地にあるが、残りの西側の店舗は未整備の土地の上にあり使い勝手も悪い。それで撤退した店もある。

奉還町の場合、歩行者通行量は減っているものの、通学路にあたっており、目の前では毎日多くの生徒、学生が通学しているが、商店街の商品は高齢者向けの品揃えになっており(周辺地区の高齢化率が30%(地区によっては40%)と高いため)、需給がマッチしていない。奉還町周辺には学校のほか病院もあり、最近ではマンション建設で人口も増えているなど、経済的なポテンシャルは一定以上のものがある。それらをいかに商店街活性化に結び付けるかが課題となっている。

(参考・引用文献)

岡山市ホームページ

奉還町りぶらホームページ

日本施策投資銀行地域企画チーム編著『中心市街地活性化のポイント』ぎょうせい、2001年

日本施策投資銀行地域企画チーム編著『錦おりなす自立する地域』ぎょうせい、2002年